



# 岡山大学理学部

# 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



2015.10  
第4号

## 岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成27年7月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	吉野雄二	理学部長(教授)
理事	谷口雅治	数学科長(教授)
理事	池畑秀一	自然科学研究科(環)教授
理事	岡田耕三	物理学科長(教授)
理事	味野道信	物理学科准教授
理事	西原康師	化学科長(教授)
理事	佐竹恭介	名誉教授
理事	川本平山	全学同窓会理事(化学科)
理事	竹内栄	生物学科長(教授)
理事	富永晃	生物学科准教授
理事	鈴木茂之	地球科学科長(教授)
理事	横谷尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	野原実	副学部長(教授)
監事	富岡憲治	副学部長(教授)

## 平成26年度 会計報告

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
1 前年度繰越	453,166	1 事業費(内訳)	565,119
2 会費	420,000	(1) 同窓会(ホームカミングデー)	118,661
3 寄付金	20,000	(2) 同窓会報作成経費	431,458
4 預金利息	108	(3) 就職セミナー講演会謝金	5,000
5 参加費	82,000	(4) 二重払い金返金	10,000
		2 事務費	14,760
		3 繰越金	395,395
合計	975,274	合計	975,274

### ■編集後記 (理学部同窓会の拡充・発展に向けて)

理学部同窓会が設立されて3年半が経過した。新設の理学部同窓会では会への入会時期を入学時に設定することにより、同窓会から在学生への連携が大幅に可能となった。この間に旧学科同窓会からの入会も順調にすすみ、2千名を超える組織に成長した。同窓会としての形態が整ったことは誠に喜ばしい。学部・学科の同窓会関係者の弛まぬ努力に負うところであり感謝に堪えない。

理学部同窓会設立の半年後に、全ての学部・研究科、全ての卒業生・在学生・教職員を対象とした岡山大学 Alumni(全学同窓会)が設立された。アラムナイは学部同窓会では対応の難しい領域で、同窓生と大学との連携を密接にすべく活動を展開している。国内での同窓会支部の設立、海外支部の設立、そして在学生に対するグローバル人材育成支援事業等である。昨年設立された東京支部総会には首都圏在住の理学部同窓生も多数出席して、学部・学科を超えて交流し親交を深めている。国内の支部は東京、愛媛、広島で活動を開始している。また、海外の支部でも卒業生がそれぞれの出身学部・研究科との連携を図りながら教育・研究分野で活躍している。海外に出かけられる際にはアラムナイ国際同窓会を通じて各国の支部と連絡を取れば何かと頼りになることと思う。

卒業生の皆さんは同級生・先輩・後輩・サークル仲間等と連絡し気楽に東京、愛媛、広島支部の総会等に出かけて友好を深め、また在学生の皆さんは就活や進路相談等に活用していただきたい。皆さんが積極的に同窓会を利用してくださることを切望している。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事 川本平山

### お問い合わせ先



### 岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内  
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777  
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp

<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>

【会則】平成24年3月5日 制定

(名称)  
第1条 本会は、岡山大学理学部同窓会(以下、「本会」という。)とする。

(目的)  
第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業)  
第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。  
一 総会の開催  
二 会報の発行  
三 会員名簿の管理  
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成)  
第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。  
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。  
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会)  
第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業生で別に組織する同窓会(以下「学科同窓会」という。)と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員)  
第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。  
一 正会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生  
二 学生会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学生  
学生会員は、卒業することにより正会員となる。  
三 特別会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務(室)長として在職した、又は在職する者  
その他、理事会において入会を認めたる者  
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員)  
第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員)  
第7条 本会に、次の役員をおく。  
一 会長 1名  
二 副会長 1名  
三 理事 若干名  
四 監事 2名  
第8条 役員の仕事は次のとおり定める。

一 会長は、会務を総括する。  
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。  
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。  
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。  
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務(総務・会計・広報・名簿管理等)を分担する。  
六 監事は、会計及び会務を監査する。  
第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。  
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。  
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。  
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。  
四 監事は、理事会で選出する。  
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)  
第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。  
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。  
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。  
2 理事会の議長は会長または副会長がたる。  
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。  
二 会務及び業務報告に関する事項。  
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。  
四 その他、役員会において必要と認められた事項。  
4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。  
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。  
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(会計)  
第14条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。  
第15条 本会の会費を次のとおり定める。  
一 正会員は、入会金(終身会費)5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。  
二 学生会員は、入会金(終身会費)5,000円を入学時に納付するものとする。  
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。  
四 会費の納付方法については、別に定める。  
第16条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。  
第17条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。  
第18条 監事は、毎年本会の会計を監査する。  
第19条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。  
第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則)  
第21条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。  
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則)  
1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。  
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。  
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

## 同窓会の“わ”を広げよう、“わ”を創ろう

同窓会員の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。発足4年目を迎えた理学部同窓会は、本年度新入生もたくさん入会し、会員約2500名となりました。10月17日(土)は恒例のホームカミングデーです。理学部では、特別講演会や懇談会、「午窓臨海実験所」見学会など開催致します。18日(日)は、岡山大学スーパーグローバルデーが開催され、海外から国際同窓会支部代表者の方々の参加が予定されています。

現在までにAlumni東京支部、広島支部、愛媛県支部が設立されています。国際同窓会支部設立も積極的に進められ、Malang(Indonesia)在住の本学部(研究科)卒業生が中心となった国際支部設立総会には森田学長が参加されました。

古来、わが国では和が尊ばれてきました。同窓会員は縁あって本学で学び、関わってこられた方々であります。会った瞬間、旧来の知己のように打ち解け、話も弾みます。学んだ学部、学科は違えども、苦業を過ごした学生時代の思い出、現在の状況などについて話も和み、新たなエネルギーも湧いてくることでしょう。このような輪を広げ、新しい輪を創りませんか。国内、海外の支部をたくさん創り、輪・和・話でお互いに豊かで実り多い人生にしましょう。

最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に一層のご協力とご支援賜りますようお願い申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。

## 同窓会に寄せて

岡山大学理学部同窓会は2012年3月に設立され、皆様方のご協力によりその機能も順次充実してまいりました。理学部は、1949年の創設より発展を続け、現在では5学科を擁し、入学定員は140名、第三年次編入生を含めると収容定員600名の学部で成長してきました。附属施設として臨海実験所、界面科学研究施設、量子宇宙研究センターが設置されています。また、理学部の教員を中心に構成されたエネルギー環境新素材拠点・光合成研究センターを加えて、世界をリードする研究が理学部では進行しています。

世の中のグローバル化などの要請から大学でも多くの改革が実施されようとしています。岡山大学では平成28年度から、今までの90分授業・セメスター制から60分授業・クォーター制への移行が実施されることになっています。それに応じて理学部でもカリキュラムの再編等が検討されております。理学部の授業も大きく様変わりすることになるかもしれませんが、理学部が科学の基礎研究と教育の中心である自負を持って教員一同励んでいくという姿勢は今後も変わりありません。

今日の理学部の発展は、岡山大学理学部や大学院において研究を積み上げてこられた卒業生の皆様のご努力や実績によるものと感謝いたしております。理学部卒業生の皆様が本同窓会のもとで交流や情報交換により一層の親睦が深められ、皆様と同窓会が益々発展されることを心よりお祈りいたしますと同時に、今後とも理学部に対して温かいご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



岡山大学理学部同窓会 会長  
(昭和43年大学院修士課程修了)  
本水 昌二



岡山大学理学部長  
吉野 雄二

## ▼活動報告

2015.10.17 理学部同窓会を開催

2015.9.2 理事会開催

2014.11.20 理事会開催

2014.10.18 理学部同窓会を開催

2014.8.21 理事会開催

2013.10.19 理学部同窓会を開催

2013.9.4 理事会開催

2013.3.6 理事会開催

2012.10.20 設立記念総会並びに懇親会開催

2012.7.4 理事会開催

2012.5.25 ホームページを公開

2012.3.5 岡山大学理学部同窓会設立



# 各学科近況報告

## 数学科 Department of Mathematics

数学科では、2015年はいくつものニュースがありました。1月に吉野雄二教授が第73回山陽新聞賞を受賞されました。2月に河備浩司教授が准教授より昇進されました。4月には吉野雄二教授が理学部長に就任されました。また10月には楠岡誠一郎准教授が新たにご着任の予定です。スタッフが充実し、学生がよりきめ細かい教育を受けることができると期待しております。

また数理学講座の大学院生も活躍しております。3月に山中聡君と清水大樹君がその博士論文、修士論文により自然科学研究科長賞をそれぞれ受賞しました。多くの大学院生が博士論文、修士論文または学術論文を執筆し、また学会や研究会で発表を行うことにより、数学研究の新しいページを切り開いていくことは喜ばしいことです。

岡山大学情報統括センターの無線LANアクセスポイントが増設され、大学院生室および数学事務室・談話室などでも同センターの無線LANサービスが受けられるようになりました。学習および研究の環境が整備され、大学院生および学部学生が、講義、演習、ゼミを通して日々、数学の学習および研究に専念できることを願っております。

数学科長 谷口雅治



## 物理学科 Department of Physics

昨年度の会報以後の物理学科における教員の異動としては、まず、昨年10月に水島健先生が大阪大学基礎工学部へ准教授として栄転なされたことです。水島先生は本学物理学科の卒業生であり、御栄転は大変喜ばしいことです。後任教員は来年4月に着任なさる予定ですので、来年度の会報でご紹介できる予定です。

今年度の学部新入生は36人、3年次編入生は5人です。1年生は4/26にSpring-8まで研修に行き、親睦を深めました。ちなみに、今年度の1年生より、大学入試の個別試験科目として物理・数学・英語の3科目を課された世代となりました。新入生の英語力は上級生と比べて優れているのかどうか、また他の科目の学力はどうか、教員は注意深く学生を観察しているところです。また、この学年から早期卒業制度を廃し、情報教育に関する教職免許課程も廃しました。今まで以上に物理の勉強を4年間に渡ってしっかりしていただくという目論見です。

今年度から就職活動開始時期が変わったので就職希望者の中には若干戸惑いもあるように見受けられますが、皆さん、比較的順調に内定を獲得しつつあるようで喜ばしい限りです。

物理学科長 岡田耕三



## 地球科学科 Department of Earth Sciences

地球科学科では25名の新入生と2名の三年次入学生を迎えました。恒例の新入生学外研修は4月に吉備中央町の吉備青少年自然の家を利用して泊二日で行いました。地層・化石などの観察のほか、天候に恵まれて天体観測を楽しむことも出来ました。今年度は気象学の塚本修先生と地質学の小田仁先生が退職されました。地球惑星物理学分野では浦川啓先生が教授に昇任されています。ところで広島土石流災害は土石流の危険性を浮き彫りにしました。防災点検が全国的に広がり、地質コンサルタムなどに所属している多くの卒業生が活躍しています。私が広島に調査にはいった折にも、卒業生の案内で発生源周辺を検討することが出来ました。今回の広島事例では、1時間100ミリの達する豪雨が地盤中の被圧水となったことが大きな被害をもたらした原因であろうと認識されてきています。

地球科学科長 鈴木茂之

VOICE 卒業生からの声

私は、2006年に地球科学科に入学し、昨年までの約9年間岡山大学でお世話になりました。現在は福井県立恐竜博物館に研究職員として勤めています。学生時代に所属していた鈴木茂之教授の研究室では、地質調査の基礎や化石を扱う研究の重要性を学び、研究室で協力していた高梁市成羽美術館の化石標本の整理や、その標本をもとにした企画展示にも携わってきました。恐竜博物館は、毎年恐竜化石発掘現場にて調査を行って、そこから得られた研究成果を発信し、展示や教育普及に活かしているのですが、大学時代のそれまでの経験が今の職場では大変役立っています。近年、地質調査のスキルをもった人材が求められる中、山の中を歩き回ってしっかりと調査ができる人材を育てられる研究室が、全国でも少なくなっていると聞きます。自身もまだまだ半人前ですが、研究室で学んだ調査のスキル等を活かし、社会に貢献できればと考えています。

湯川弘一 (平成21年卒業)





## Message from OB

三坂 渉  
平成27年 数学科卒業

私は平成23年4月に岡山大学理学部数学科に入学し4年間に在籍していました。正直なところ、数学を「勉強したい!学びたい!」と思って入学したわけではないということもあり、授業の難易度が上がるにつれてこのまま数学が嫌いになってしまうのではないかと思うことが多々ありました。しかし、4回生になると担当教員の指導のもと、自分の学びたい分野に関して深く掘り下げる「課題研究」が中心になります。この時初めて自ら数学を勉強し、自分の文章で証明をかきました。担当教員の添削を受けることで少しずつ内容の改善を図ること、よりわかりやすい表現に変更するなど主体的に取り組み、数学的には稚拙だったかと思いますが自分なりにベストな、そして自分らしさの詰まった課題研究を発表できたと思います。

現在は、地元の県立高校(山口県立大津緑洋高等学校水産校舎)の教員として働いています。毎日起こることすべてが新しいことばかりで、そのすべてを吸収するにはまだまだ時間がかかりそうです。さらに、勤務校は専門高校ですので生徒は自身の就職に関わりがない数学にあまり興味を示してくれません。そのような環境の中でいかに聞いてもらえる授業を実施できるように悪戦苦闘しています。そこで、大学で学習した数学の知識を噛み砕いて授業の中で話すことで興味を持ってくれます。今後も大学4年間の知識や経験が現在の仕事の糧として、教員としての資質や能力をさらに高めていきたいです。




## 化学科 Department of Chemistry

現在、化学科に所属する教員は23名であり、理学部附属界面実験施設の化学系教員を含めると26名になります。2015年7月には鈴木孝義准教授(錯体化学分野)が教授に昇任し、同9月には森 裕樹助教(機能有機化学分野)が着任しました。

化学科における代表的な最近の研究成果を二つ紹介します。黒田泰重教授らは、アルミケイ酸塩の一種であるゼオライト中にZn<sup>2+</sup>をイオン交換した試料は室温付近で水を活性化すること、また、形成されたZn<sup>0</sup>種に光照射することによりZn<sup>+</sup>種が形成される現象を見だし、ゼオライト中の特異なAl配列が亜鉛種に新奇な電子状態を創出することを明らかにしました。また、望月建爾特任助教、甲賀研一郎教授の研究グループは、カーボンナチューブ(直径約1ナノメートル)の内部に閉じ込められた水の挙動を分子シミュレーションで解析した結果、氷と水の区別がなくなる新たな臨界点(固液臨界点)が存在することを世界で初めて明らかにし、米国科学アカデミー紀要に報告しました。それ以外にも、化学科の教員、学生は、物理化学、有機化学、無機分析化学を基盤とした第一線の研究を行い、その結果について外部に発信し続けています。

一方で化学科では、国際交流を初めとする英語教育にも力を注いでいます。2010年から始まった国立台湾大学理学院と岡山大学理学部の間で交互に学生が訪問するという国際ワークショップ(集中講義形式の英語による授業)は今年で第6回目を数えました。今回からはタイのチュラロンコン大学理学部からの学生も加わり、今後はさらに活発に交流が行われることが期待されます。

以上のように化学科では、基礎学理を探索しながら教育研究に活発に取り組んでいます。最後に、同窓生の皆様の益々のご活躍を祈念いたします。今度も化学科に対するご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

化学科長 西原康郎




## 生物学科 Department of Biology

生物学科では、昨年度末から本年度初めにかけて2名の教員の異動がありました。ウーマン・テニュア・トラック(WTT)制による相澤清香特任助教の採用(本年3月)と、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻からの竹内秀明准教授のご着任です(本年4月)。その結果、現在の陣容は、教員総数20名、事務担当非常勤職員1名となりました。教員や学生の活躍振りは、学科HPや報道等でご存知の通りですが、富岡教授が平成25年度の日本動物学会賞に続いて、平成26年度日本比較生理生化学会賞を受賞されたこと、沈教授と菅助教の研究成果がScienceの表紙で紹介されたことは特記すべきことです。今後も優れた教育・研究成果を出せるように努力して参りますので、ご支援の程、何卒宜しくお願い致します。

生物学科長 竹内 栄

VOICE 卒業生からの声

私は2010年3月に大学院自然科学研究科を修了し、WTT期間を経て2013年4月から理学部生物学科の助教として働いています。かつて自分が受けていた実習や授業を行う立場になり、先生方が時間をかけて準備した講義は、とても貴重な時間だったのだなあと、学生時代を反省することも多いです。そのぶん今は、学生の意欲に応えられるようになりたいとがんばっています。学部の卒業研究から一貫して光合成の研究に携わっており、国際シンポジウムの開催や、光合成研究センターの設置といった大きなイベントにも立ち会うことができました。岡山大学は研究環境も生活環境も素晴らしいと実感しながら、日々過ごしています。

西村美保 (平成17年卒業)





## 附属臨海実験所

附属臨海実験所での教育活動には生物学科対象の臨海実習、学内外向けの公開臨海実習などのカリキュラムがあります。これらは生命多様性についての基礎的な内容から生命現象のメカニズムについての先端的な実験まで、学生の好奇心を刺激できるような様々なメニューで構成されています。近年では実験所周辺の生物相にも変化が見られ、ミドリシャミンガイ(写真)のようなかつては見られなかった貴重な動物が出現、実習生とスタッフを喜ばせることもあります。「多様な生物を用いたグローバル先端実験教育のための共同利用拠点」として文部科学省に再認定され、最先端の機器設備、3隻の実習船などの利点を活かして、ハワイ大学、東京大学等との共同研究も活発に展開されています。

所長 坂本竜哉




## 附属界面科学研究施設

Laboratory for Surface Science

附属界面科学研究施設では、人類の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員がそれぞれの専門分野の研究を展開しています。超伝導(ある種の物質の電気抵抗が、その物質に固有な温度(超伝導転移温度)以下でゼロになる現象)を示す新物質開発と超伝導機構の解明は施設において行われている主要な研究課題です。昨年度、施設の第3部門として「先端超伝導材料研究部門」が新設され、本年4月からは世界的な超伝導研究者である秋光純教授の研究グループが研究を開始しました。従来とは異なる機構を持った超伝導体の探索により、より高い超伝導転移温度を持った新物質の開発を目指して研究を進めています。

施設長 横谷尚睦




## 附属量子宇宙研究センター

Research Center of Quantum Universe

なぜ宇宙から反物質が消滅したのか、その鍵を握るのがニュートリノと呼ばれる素粒子です。量子宇宙研究センターでは、原子や分子にレーザー光を照射し、その反応からニュートリノの性質を明らかにしようとしています。原子からのニュートリノ対放射の実証が最初の目標です。2014年には、その第一歩ともいえるバリウム原子準安定状態の生成と、パラ水素によるコヒーレント2光子対放射の観測に成功しました。センターには、理論を担当する吉村太彦教授と実験を担当する植竹智准教授が在籍し、2名の理学部学生、2名の大学院生と協力して研究に取り組んでいます。また、全学の研究組織である極限量子研究コアには吉村浩司教授、笹尾登教授の他、4名の教員が在籍し、物理学科とも協力して教育と研究を進めています。

センター長 野原 実


